



新町地区

地震・津波避難支援マップ

平成29年3月

この地図は、南海トラフ巨大地震で想定されている大津波に対して、住民一人一人が安全で迅速な避難方法を考えるために必要な情報を新町コミュニティ協議会、新町地区自主防災連合組織、徳島大学環境防災研究センター及び徳島市が協力してまとめたものです。巨大災害では「その時、その場所で、その人にできる最善の行動をとる」ことが大切です。災害時に慌てる事がないように、普段から様々な状況を想像して、複数の避難方法を考えておくことが肝心です。

この地図には想定浸水域・浸水深は示してありません。『徳島市地震・津波防災マップ』（平成26年3月）をご覧ください。

新町地区の地震・津波災害(想定)と対応

南海トラフ巨大地震が発生すると、**建物等の損傷、倒壊、落下**のほか、地盤沈下や液状化による**道路破損**の可能性があります。また**眉山周辺ではがけ崩れや土石流**の恐れもあり、雨が降るとその危険性は高まります。

津波は地震発生から41分後に東沖洲マリニピア東端に到達し、53分後には最大高さ約5mになると想定されています。主に新町川沿いに遡ってくる**津波による地区内の浸水深は1～3m**と想定されています。

避難場所までの移動に使える時間は約30分と考えられますが、障害や混乱、高齢者や幼児、けが人の介助等によりさらに移動時間が短くなることも予想されます。

西富田コミュニティ
センター(234)

瑞巖寺境内
(840)

新町公民館
(213)

新町小学校
(1,523)

天神社境内
(600)

春日神社
境内
(800)

三島神社境内
(900)

徳島ワシントン
ホテルプラザ
(944)

中筋ビル
(186)

徳島三木ビル
(425)

幸福の科学
四国本部精舎
(1,011)

阿波おどり会館
(1,512)

浄智寺
2階外縁
(60)

東光寺
2階外回廊
(40)

アクティ21
(385)

富田街
常山ビル
(17)

甲子園ビル
(83)

アルファ
ホテル徳島
(218)

SYパーキング
(438)

還國寺
2階外回廊
(40)

円徳寺
(558)

ワークスタッフビル
屋外階段・屋上テラス
(150)

9時～18時のみ避難可
12/29～1/4は全日利用不可

ワークスタッフ研修センター
2～7階 屋内階段・共用廊下
(210)

あわぎん・ホール
(2,290)

橋が破損していれば
避難を控える

500m

0m

製作：新町コミュニティ協議会、新町地区自主防災連合組織、
徳島大学環境防災研究センター、徳島市
問合せ先：新町コミュニティ協議会(088-652-3472)

「この地図は、徳島市長の承認を得て、
1/2,500地形図を使用したものである。
(承認番号 平28徳島市指令都政第660号)」

記号の説明

徳島市指定 津波避難ビル(収容人数)
徳島市が所有者等と協定を結んでいる建物施設

徳島市指定 津波緊急避難場所(収容人数)
徳島市が所有者等と協定を結んでいる高台

津波避難協力ビル(収容人数)
新町コミュニティ協議会が独自に所有者等から
協力を得ている建物施設

建物入口 避難方向・敷地入口

かぎ保管庫
震度5強以上の揺れで扉が自動的に解錠され、収納されて
いる鍵を使って安全に施設内に避難することができます。

幹線避難路 注意が必要な道路

危険箇所 0.3 地盤高(海拔[m])

土石流 地すべり

がけ崩れ
急傾斜地の崩壊

このマップのがけ崩れ、土石流、地すべりの区域は参考
であり、詳細は**徳島市土砂災害ハザードマップ**(徳島市
ホームページに掲載)をご覧ください。

かぎ保管庫



が付けられている津波避難ビルは、夜間休日は施錠されていて入れません。しかし入口付近に「かぎ保管庫」が設置されており、震度5強以上の揺れが感知されると、ビル入口の鍵を取り出せるようになっています。



新町地区 地震・津波避難支援マップ

我が家の避難マップ

■このマップの使い方 ~実際に歩いて確かめる~

『地震・津波避難支援マップ』を参考に自宅から避難場所まで災害を想像しながら歩きます。建物や塀の損傷・倒壊、地盤沈下や液状化による道路の損傷、がけ崩れ等に参加しながらの避難は体力・精神力を消耗します。また夜間や悪天候の可能性もあるので、避難先へはいつもの歩行速度の半分程度で到着できる所が理想です。避難先と避難経路は万が一に備えて複数を考えます。自宅から避難先までの避難経路、所用時間、注意事項等を地図に記入して整理します。

避難先と連絡手段

■避難先

- 第1避難先：
- 第2避難先：
- 第3避難先：

■連絡手段

- ☐ N T T災害用伝言ダイヤル（171）
- ☐
- ☐

津波浸水深と木造建物被害

『東日本大震災による被災現況調査結果について（第1次報告）国土交通省、平成23年8月4日』によると、**木造家屋の半壊発生**度合いは、**浸水深0.5mまでで50%、1.0mまでで90%**と報告されています。

全壊発生の度合いは、**浸水深1.5mを超えると高くなり**、浸水深2.0mで40%、2.5mで90%と報告されています。**自宅に留まらず避難することが大切です。**

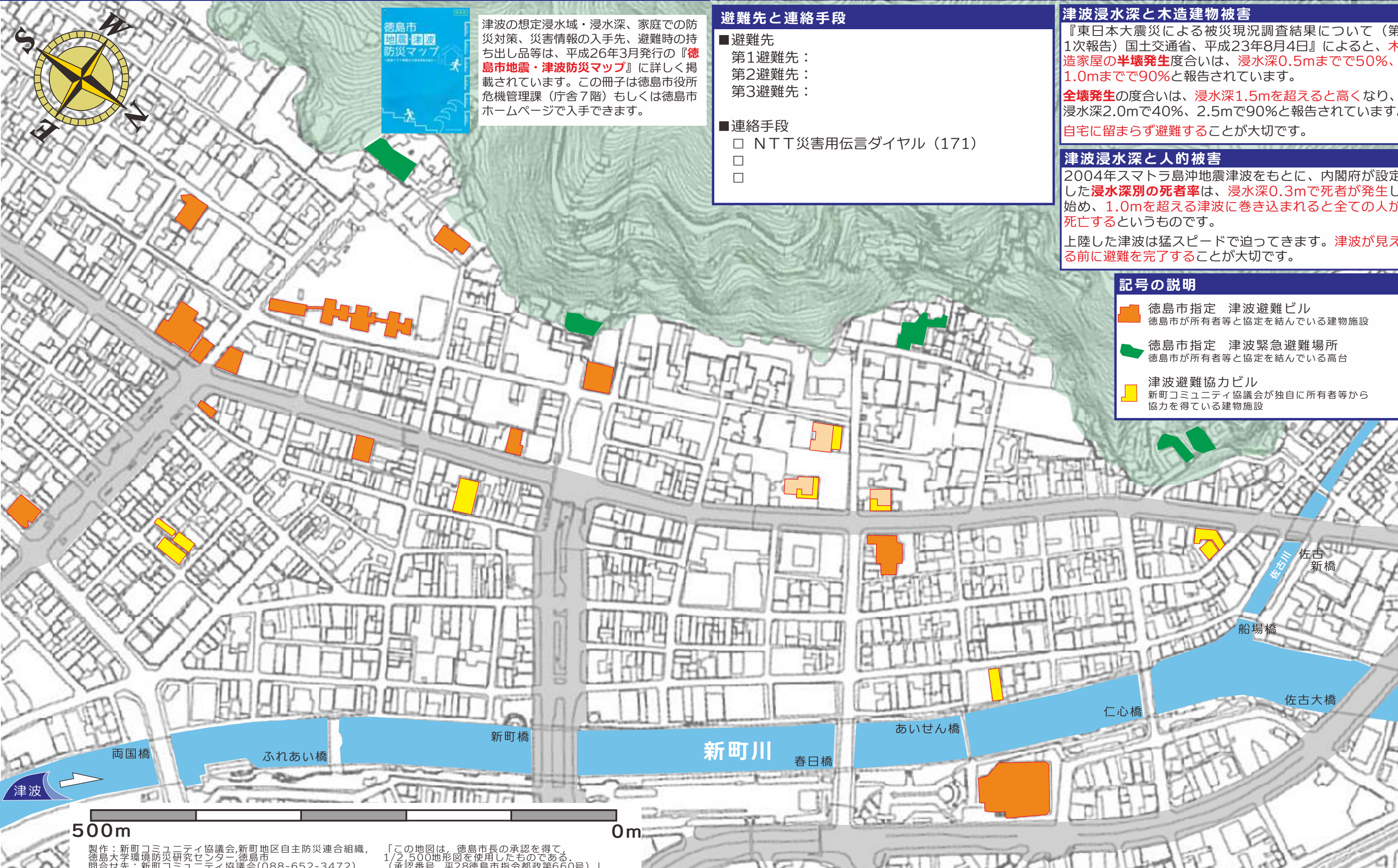
津波浸水深と人的被害

2004年スマトラ島沖地震津波をもとに、内閣府が設定した**浸水深別の死者率**は、**浸水深0.3mで死者が発生し始め、1.0mを超える津波に巻き込まれると全ての人が死亡する**というものです。

上陸した津波は猛スピードで迫ってきます。**津波が見える前に避難を完了することが大切です。**

記号の説明

-  徳島市指定 津波避難ビル
徳島市が所有者等と協定を結んでいる建物施設
-  徳島市指定 津波緊急避難場所
徳島市が所有者等と協定を結んでいる高台
-  津波避難協力ビル
新町コミュニティ協議会が独自に所有者等から協力を得ている建物施設



製作：新町コミュニティ協議会、新町地区自主防災連合組織、
徳島大学環境防災研究センター、徳島市
問合せ先：新町コミュニティ協議会(088-652-3472)

「この地図は、徳島市長の承認を得て、
1/2,500地形図を使用したものである。
(承認番号 平28徳島市指令都政第660号)」



新町地区 地震・津波避難支援マップ

津波避難ビル・津波緊急避難場所と収容人数

～津波避難ビル・津波緊急避難場所，かぎ保管庫を確認しよう～

平成29年3月



津波避難施設の種類

津波が来る恐れのある場合に、身を守るために緊急的・一時的に避難する建物や高台には、次の3種類があります。いずれも原則として食料・飲料水、毛布等の備蓄はありません。

①**徳島市指定 津波避難ビル**（橙色）は徳島市が施設管理者・所有者と協定を結んだ避難ビルで、十分な高さで24時間いつでも避難可能で十分な耐震性を備えています。

②**徳島市指定 津波緊急避難場所**（緑色）は高台（屋外）です。土砂災害には気を付けて下さい。

③**津波避難協力ビル**（黄色）は新町コミュニティ協議会が施設管理者・所有者から徳島市指定津波避難ビルに準じた使用の許可を頂いたものです。ただし徳島市指定津波避難ビルと比べて、構造形式や避難できる日時帯等の条件で制約があります。緊急時の補助的な施設としてお考え下さい。

かぎ保管庫



が付けられている津波避難ビルは、夜間休日は施錠されていて入れません。しかし入口付近に「かぎ保管庫」が設置されており、震度5強以上の揺れが感知されると、ビル入口の鍵を取り出せるようになっています。



三島神社境内